

平成21年度当初予算 重点的な取組別概要 <みえの舞台づくりプログラム>

絆3：「こころのふるさと三重」づくりプログラム（主担当部：政策部）

<プログラムの目標>

住む人も訪れる人も「心の豊かさ」を実感できる「こころのふるさと三重」をめざして、特色ある地域資源を活用した地域づくりと多彩なイベント、観光振興の取組を一体的に展開することにより、地域に埋もれていた多様な魅力が再発見され、地域の魅力に触れるさまざまな体験交流活動が行われています。

また、「こころのふるさと三重」づくりを進める一環として、*2009年から6年間にわたって県内全域で展開する「美し国おこし・三重」により、活動分野や地域を越えた多様な交流・連携が広がっています。 *プログラム目標の一部を変更しています。

<構成事業（担当部）>

- 変更** (1)「美し国おこし・三重」総合推進事業（政策部）
 (2) 世界遺産熊野古道対策推進事業（政策部東紀州対策局）
 (3) 熊野古道伊勢路を結ぶしくみづくり事業（政策部東紀州対策局）
 (4) 世界遺産登録5周年記念事業（政策部東紀州対策局）
 (5) 歴史的・文化的資産を生かしたみえの魅力発信事業（生活・文化部）
 (6) 【再掲】景観まちづくりプロジェクト事業（県土整備部）
 (7) 【再掲】都市との共生による農山漁村再生事業（農水商工部）
 (8) グリーン・ツーリズムネットワーク拡充事業（農水商工部）
 (9) 【再掲】「旅ごころ誘う三重奏」誘客戦略推進事業（農水商工部観光局）
 (10) 【再掲】三重の観光プロデューサー設置事業（農水商工部観光局）
 (11) 【再掲】魅力ある観光地グレードアップ事業（農水商工部観光局）

(6)(9)(10)(11)の事業は重点事業「絆1・『住んでよし、訪れてよし』の観光みえ・魅力増進対策」の構成事業を、(7)の事業は重点事業「元気3・農山漁村再生への支援」の構成事業を再掲。

注：(1)は事業を一体的に進めるため、現行の(1)「こころのふるさと三重」づくり支援事業、(12)「美し国 三重」イベント（仮称）総合推進事業、および(13)「美し国 三重」イベント（仮称）開催事業を統合。

<プログラムの事業費>

（単位：千円）

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
策定時の見込額 1	36,016	23,000	24,000	29,000
予算額等 2	30,016	74,351	330,630	

1 第二次戦略計画策定時における計画記載額。「美し国おこし・三重」総合推進事業分については、策定時に未定のため、見込額には含まれていません。

2 H19年度は決算額、H20年度は予算現額、H21年度は予算要求額

< 構成事業の目標 >

目標項目		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
変更(1)パートナーグループとして登録されたグループ数(累計)	目標値	-	-	-	100 グループ	300 グループ
	実績値	-	-	-		
(2)熊野古道の来訪者数(延べ数)	目標値	-	166 千人	179 千人	191 千人	204 千人
	実績値	154 千人	150 千人			
(3)熊野古道伊勢路踏破挑戦者数(踏破手帳発行数)(累計)	目標値	-	1,500 人	3,000 人	4,000 人	5,000 人
	実績値	-	1,766 人			
(4)5周年記念事業による集客数	目標値	-	-	-	10,000 人	-
	実績値	-	-	-		-
(5)歴史街道GISの作成数(累計)	目標値	-	2 街道	3 街道	4 街道	5 街道
	実績値	1 街道	2 街道			
(8)グリーン・ツーリズム大会参加者数	目標値	-	-	150 人	150 人	700 人
	実績値	-	-			

< 進捗状況(現状と課題) >

- ・ 「^{うま}美し国おこし・三重」については、平成 19 年度に多様な主体の参画を得て、この取組の推進組織である実行委員会を設立するとともに、基本構想を確定しました。また、平成 20 年 11 月に策定した基本計画に基づき、多様な主体の参画を一層促進するとともに、地域づくりと新たなスタイルのイベント、観光振興の取組を一体的に進めるしくみづくりが必要です。
- ・ 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の魅力を広く情報発信していくため、奈良県、和歌山県と三県が連携してスタンプラリー等に取り組みむとともに、「熊野古道伊勢路」については、地域や市町と協働し伊勢路を伊勢から熊野までを通して歩く「平成の熊野詣」を実施しているところです。また、伊勢から熊野までをつなぎ、伊勢路として発信するとともに歩くための目印とするためのシンボルマークを決定しました。今後、このシンボルマークをたどって安心して歩くことのできる環境を整えることが必要です。
- ・ あわせて、歴史街道GIS(地理情報システム)を活用し、熊野古道や初瀬、伊賀、伊勢街道等の情報の集積や発信に取り組みむとともに、まち並みを生かした景観まちづくりを進めています。今後、街道に関わるさまざまな取組と連携し、街道を通じた地域間連携、広域連携をより一層推進していくことが必要です。
- ・ 農山漁村の多様な魅力・価値の活用に向けては、グリーン・ツーリズムをテーマとしたシンポジウムや地域研修を開催しています。今後は、グリーン・ツーリズムに取り組み実践者のネットワークの拡充が必要です。

< 平成 21 年度の取組方向 >

「^{うま}美し国おこし・三重」では、策定した基本計画に基づき、多様な主体が参画する実行委員会において、「^{うま}美し国おこし・三重」のオープニングを行うとともに、各地で座談会を開催し、自主的・主体的に地域づくりの活動を行おうとするグループ(パートナーグループ)への支援を行います。

熊野古道の保全と活用に関する取組としては、熊野古道伊勢路のサイン整備を進めるとともに、熊野古道の世界遺産登録5周年の記念事業を「^{うま}美し国おこし・三重」のオープニングの一環として実施し、国際シンポジウムの開催、「平成の熊野詣」の実施など地域や市町等多様な主体と協働した取組を展開することとします。

あわせて、歴史的・文化的資産を生かしたみえの魅力発信事業については、街道を核としたデジタルアーカイブ（有形・無形の文化資源等をデジタル化して保存等を行うことをいいます。）のしくみづくり等について調査研究します。

田舎（農山漁村）の魅力の発信やグリーン・ツーリズムに取り組む実践者のネットワークの拡充に取り組みます。

<他の主体の参画内容>

- ・ 市町や地域づくり関係者、企業、団体等は、地域づくりについての対話を進めるとともに、交流・連携を深め、街道や農山漁村の魅力を生かした活動など、住む人にも訪れる人にも魅力的な地域づくりを進めます。
- ・ 熊野古道に関わる人々が連携・協働して、熊野古道の魅力や価値を高める活動に取り組みます。
- ・ 歴史的・文化的資産を生かしたみえの魅力発信事業については、三重大学と共同して調査研究していきます。
- ・ 農山漁村の多様な魅力・価値の活用に向け、農山漁村地域住民の参画による里づくりに取り組むとともに、農山漁村の魅力的な情報発信により都市と農山漁村の交流・共生を促進します。

<主な事業>

「^{うま}美し国おこし・三重」総合推進事業

【基本事業名：53105「こころのふるさと三重」づくりの推進】(事業(1))

予算額：(20) 25,333千円 (21) 284,985千円

事業概要：策定した基本計画に基づき、多様な主体が参画する実行委員会において、「^{うま}美し国おこし・三重」のオープニングを行うとともに、座談会の開催、パートナーグループの育成・支援、担い手育成のための研修、広報宣伝活動などを行います。

熊野古道伊勢路を結ぶしくみづくり事業

【基本事業：53302 地域の宝に気づき、守り、生かす集客交流の推進】(事業(3))

予算額：(20) 6,463千円 (21) 6,136千円

事業概要：伊勢から熊野までの「熊野古道伊勢路」を多くの人びとが通して歩くことができるよう、伊勢路シンボルマークを使ったサイン整備を進めるとともに、沿線地域の人々や市町等多様な主体と協働して「平成の熊野詣」を実施し、地域間の連携や文化交流を活用した地域づくりを支援します。

世界遺産登録5周年記念事業

【基本事業：53302 地域の宝に気づき、守り、生かす集客交流の推進】(事業(4))

予算額：(20) 5,570千円 (21) 29,512千円

事業概要：熊野古道の世界遺産登録5周年にあたる平成21年度に、地域住民等多様な主体と協働しながら国際シンポジウム等の記念行事を実施します。

歴史的・文化的資産を生かしたみえの魅力発信事業

【基本事業名：13104 文化芸術を通じた他地域、他分野との連携・交流と発信】(事業(5))

予算額：(20) 5,306千円 (21) 2,161千円

事業概要：三重大学と共同して、街道を核とした歴史的・文化的資産に関するデジタルアーカイブ(有形・無形の文化資源等をデジタル化して保存等を行うことをいいます。)のしくみづくり等について調査研究します。

グリーン・ツーリズムネットワーク拡充事業

【基本事業名：53202 都市との交流・共生による元気なむらづくり】(事業(8))

予算額：(20) 2,700千円 (21) 2,565千円

事業概要：三重県の田舎(農山漁村)を県内外に広くPRし「田舎の存在意義」を発信しながら、都市と田舎との交流を大きなうねりとするため、グリーン・ツーリズム大会などを開催し、農山漁村の魅力を高めるネットワークの拡充をはかります。